

兵庫・^{さかいだに}境谷遺跡

- 1 所在地 兵庫県姫路市太市中字境谷
- 2 調査期間 一九九五年(平7)七月~八月
- 3 発掘機関 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
- 4 調査担当者 別府洋二・國本綾子
- 5 遺跡の種類 河道跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代~平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(龍野)

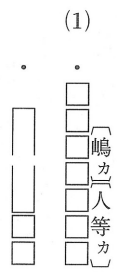
境谷遺跡は姫路市の西端部にあり、南側は揖保郡太子町と接している。古代山陽道の太市駅家の南約1kmの地点にあたり、さらに南五〇〇mには、奈良時代から平安時代の掘立柱建物や井戸を検出し、銚帯や硯、墨書土器などが出土した亀田遺跡が所在する。

今回の調査地点は、谷の中を南流する大津茂川の支流である太市川の横であり、検出した流路も同川の旧河

道である。旧河道は、七世紀頃に杭などで護岸を行なっているが、その後砂やシルトなどによって埋没する。

木簡は、この旧河道の最上層のシルト層から出土した。旧河道埋没後は、河道と直交する方向に数条の溝が設けられており、一〇世紀頃の須恵器椀が出土している。

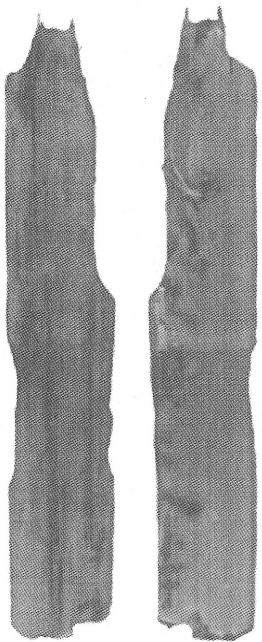
8 木簡の釈文・内容



(133)×(22)×5 081

右辺がほぼ原形を保つが、上下は折損、左辺も割れている。右辺最下端は斜めに切り込まれた状態になっており、切り込みの痕跡の可能性もある。文字は両面に記されているが、内容は判然としない。

なお、木簡の釈読にあたっては、奈良国立文化財研究所の古尾谷知浩氏、山下信一郎氏、渡辺晃宏氏のご教示を得た。(別府洋二)



(赤外線テレビカメラ画像による)